

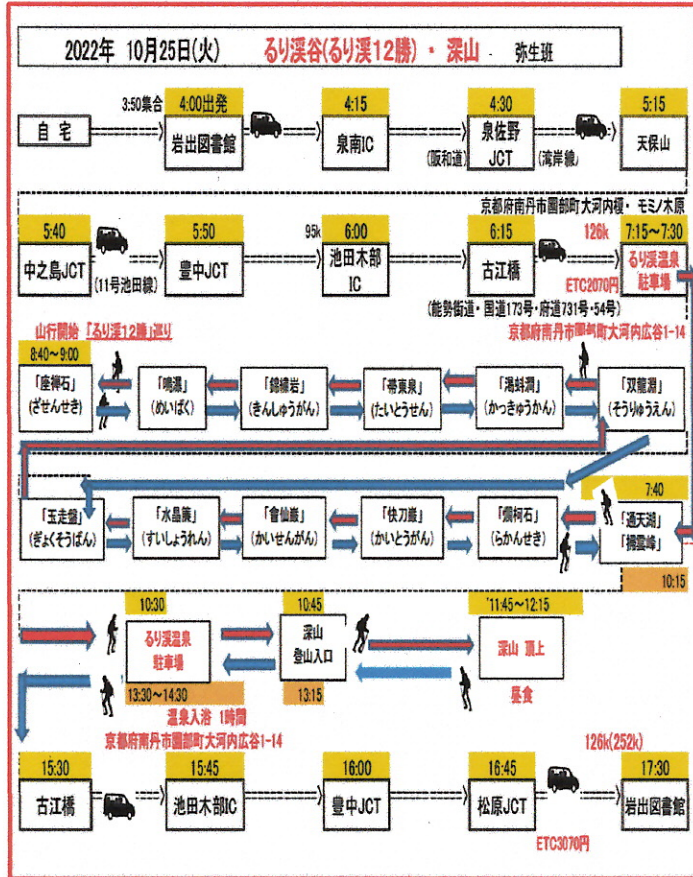
るり渓谷(るり溪12勝)・深山(791m)

紀峰山の会 (弥生班)

※(山行日) ---- 2022年10月25日

(メンバー) -----計7名
 (弥生班)----木村、楠部、山本、河原、永井
 上畑、有本

※(行程) [予定]

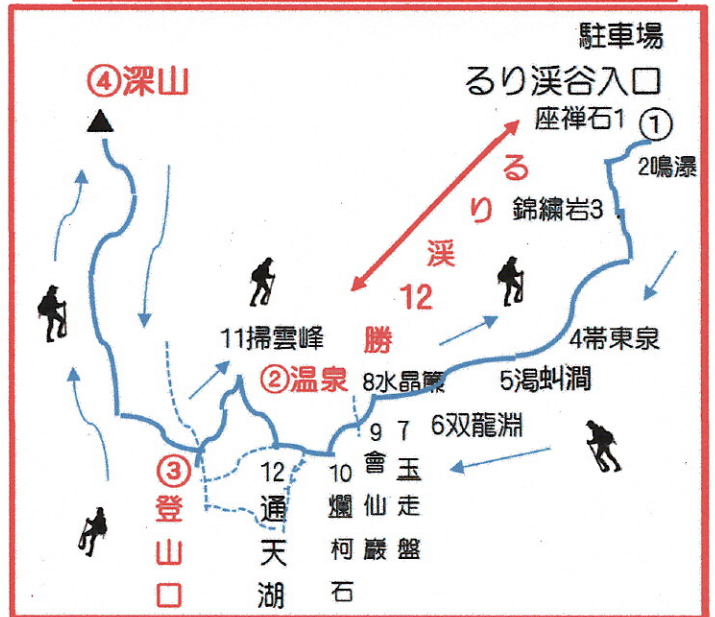


「るり溪12勝」とは一

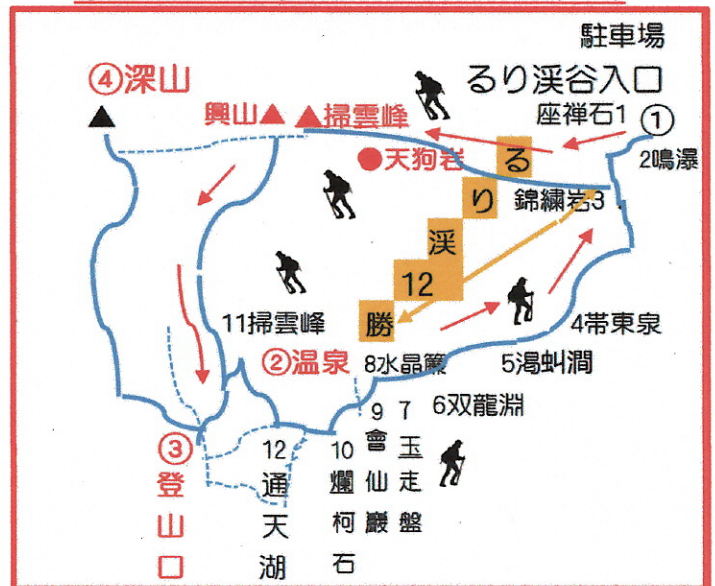
{るり溪十二勝}

るり溪の名勝は、寛永年間に貴族出身の一条和尚が座禅を組んだ「座禅石」、天狗の鼻を思わせる奇岩で天狗岩の名がある「掃雲峰」(そうんぼう)、滝の裏が空洞で音が共鳴する「鳴瀑」(めいばく)、紅葉の季節にはひととき見事な「錦織岩」(きんしゅうがん)、滝のしぶきで虹が発生する滑滝である「帯東泉」(たいとうせん)、龍の水飲み場といわれる「湯蚪洞」(かつきゅうかん)、雌滝の滝壺が深い淵となった「双龍淵」(そうりゅうえん)、一枚岩の岩盤の上をゆるやかに水が流れる「玉走盤」(ぎょくそうばん)、滝の落ちる様が水晶のすだれのような「水晶簾」(すいしょうれん)、仙人が集まり滝から流れる水に盃を流すという曲水の宴を楽しんだ「會仙巖」(かいせんがん)、「快刀巖」(かいとうがん)、「通天湖」、「爛柯石」(らんかせき)。

(計画時の、るり渓谷・深山 ロードマップ)



(現地でルート変更した ロードマップ)



※[はじめに]

(るり渓谷)

・るり溪は、“森の京都”と言われる京都府中部、南丹市園部町の南西部にある、標高 340~530 m ほどの山地にできた渓谷で、国の名勝にも指定され、「残したい日本の音風景100選」や「京都自然100線」にも選定されている。

・「るり」とは紫色をおびた紺色の宝石のことで、明治時代、この地に遊んだ郡長があまりの美しさに感動して命名したといわれている。

・この一帯は「滑(なめら)」「滑石(なめら)」または「滑溪(なめら)」と呼ばれていたようで、「るり溪12勝」と呼ばれる大小さまざまな滝や岩が、四季それぞれに変化する兩岸の木々や花とマッチして、天下の名勝を誇っていると解説があった。

(写真1) (7:40 るり溪谷入口で体操)



- ・4時に岩出図書館を出発。
予定どおり現地に到着し、先ず、準備体操!!

(写真2) (ミーティング)



- ・本日のリーダーからルート説明
「石畳は滑りやすいので注意」の安全の一声

(写真3) (るり溪谷入口で)



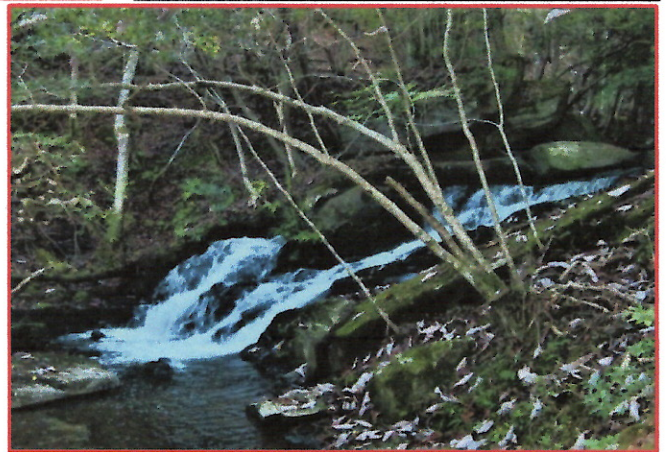
- ・冷たい朝で、気が引き締まる。

(写真4) (8:00 出発)



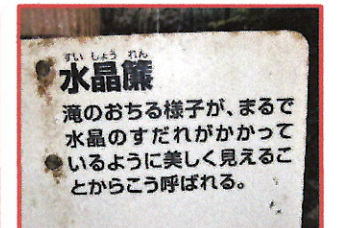
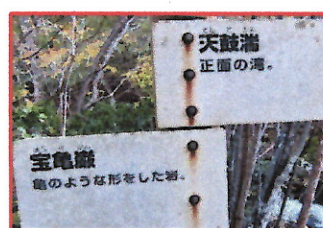
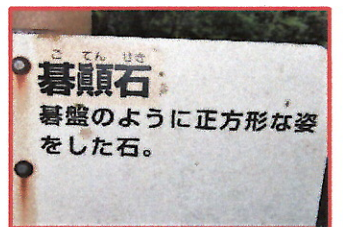
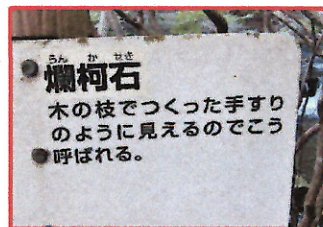
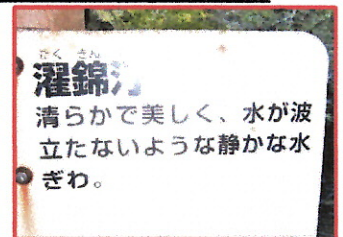
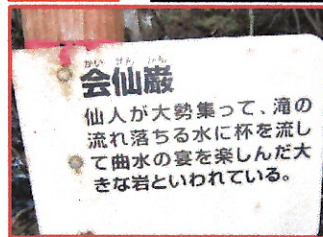
- ・最初は木々が生き茂り、暗い雰囲気である。

(写真5) (12勝---千幻瀑「せんげんばく」)



- ・「大きな岩を流れ落ちる飛瀑で階段状になった岩」と説明の看板があった。

(写真6) (12勝の看板で各所の説明あり)



- ・各所に説明看板があるが、どの滝か石か? わからなかった。

(写真7) (滝の前で…)



・何という滝だったかな～？

(写真8) (弾琴泉「だんきんせん」)



・突き出た石が沢山の小さな滝をつくり、琴を弾いているように見えるとの説明あり？

(写真9) (12勝——双龍淵の前で)



・雄雌の龍が水中に泳いでいる深い淵との看板に説明があった。？

(写真10) (12勝—渴蚪澗「かつきゅうかん」)



・龍の水飲み場でサンショウウオが住んでいるとの説明あり..？

(写真11) (看板の説明を疑わしく進む)

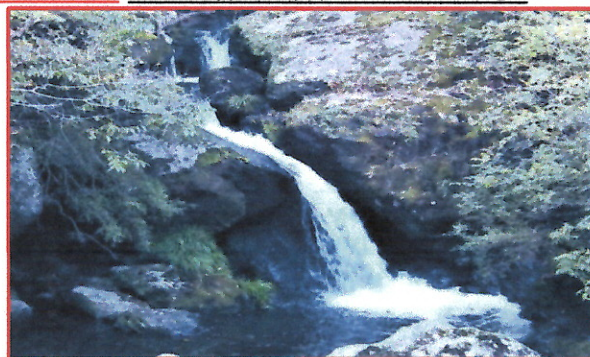


(写真12) (快刀巖「かいとうがん」)



・なるほど—岩の間から松が出ている

(写真13) (12勝—鳴瀑「めいぱく」)



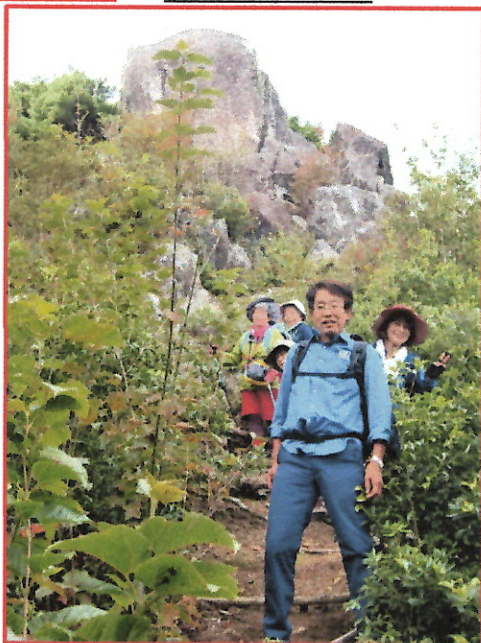
・滝の裏が空洞で音が共鳴している。

(写真14) (ルート変更)



- ・るり溪谷の奥から往復の計画であったが、ヤママップで調べると掃雲峰から深山へのルートを発見。深山へはここから直接、掃雲峰越えのルートに変更することになった。

(写真15) (天狗岩)



(写真16) (天狗岩を仰ぐ)



・高いなあ～。登りたい!!

(写真17) (途中で迷いながら深山へ)



(写真18) (掃雲峰・興山を超え深山へ進む)



- ・この後、小雨が降り迷い道となったため、深山頂上を諦め、出発点の「るり温泉」の方に舵を切り、温泉入浴後、帰路に就いた。

※[最後に]

(トラブル)

- ・当初の計画からルート変更したため登山道が分からず時間を要してしまったため、2番目(深山頂上)の目的に到着できなかった。現地での下調べしていないルート変更は、すべきでないと反省する。
- ・携帯電話の充電器を持参していたが、接続線を間違えて持っていったため、充電できなかった。確認不足であり反省材料である。

(感想等)

- ・るり溪谷の見どころである12勝は、現地に案内板があり滝や岩等の解説があるが、解説のどの滝や岩なのか判らず、景観はよいが想像していた感動的な12勝ではなかった。
- ・るり溪温泉に入浴し、小雨で冷えた体が温もり癒された。